

受験番号	次世代学校教育創成 サブプログラム
------	----------------------

令和4年度  
筑波大学大学院 教育学学位プログラム 博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題（10月実施）

## 共通科目

(10:00~11:30)

解答要領
------

次の事項に注意して解答しなさい。

1. 「解答はじめ」の合図があるまでは解答を始めてはいけません。
2. 「解答やめ」の合図があれば直ちに筆記用具を置いてください。合図の後も筆記用具を持っている場合には不正行為と見なします。
3. 共通科目の問題には「教育原理に関する問題」と「教育心理に関する問題」があります。問題用紙の枚数は「教育原理に関する問題」が4枚、「教育心理に関する問題」が3枚です。
4. 「教育原理に関する問題」と「教育心理に関する問題」の答案用紙はそれぞれ1枚です。「教育原理に関する問題」と「教育心理に関する問題」はそれぞれ2問ずつありますので、すべて解答してください。
5. 答案用紙のホチキスは、外して解答してください。

【 令和4年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（ 「教育原理に関する問題」 ） 専門科目 4枚のうち 1枚目

問題1 次の（ ）の中にあてはまる適切な用語を、次ページに示した選択肢の中から一つ選び、その事項の記号を解答欄に記入しなさい。

(1) 幼稚園の教育課程や保育内容については、( ① )において定められている。2017(平成29)年版においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、(1)健康な心と体、(2)自立心、(3)協同性、(4)道徳性・( ② )の芽生え、(5)社会生活との関わり、(6)思考力の芽生え、(7)自然との関わり・生命尊重、(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、(9)言葉による伝え合い、(10)豊かな感性と表現の10項目がある。また、ねらいおよび内容は、「健康」「( ③ )」「環境」「言葉」「表現」の5領域から成る。これに対して保育所については( ④ )から「保育所保育指針」が告示されているが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」やねらいおよび内容は、上記と同一である。

(2) 校長は、児童等の学習及び健康の状況を記録した書類の原本として、( ⑤ )を作成しなければならない。2019(平成31)年の通知においては、「学籍に関する記録」と「指導に関する記録」から成り、前者は( ⑥ )年間、後者は5年間保存される。「指導に関する記録」のうち、「各教科の学習の記録」の観点から、「知識・( ⑦ )」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」から成る。また「評定」については、小学校( ⑧ )年生以上については3段階、中学校および高等学校については5段階で評価する。

(3) 児童虐待とは、子どもの養育・福祉に責任を持つ保護者が( ⑨ )才未満の子どもに行うものであり、身体的虐待、性的虐待、( ⑩ )、心理的虐待がある。児童虐待の件数は、通常、( ⑪ )への相談対応件数に基づいて把握され、増加傾向にある。学校の教職員は、子どもの異変に気が付きやすく、家庭にも( ⑫ )し得るため、この問題の解決に資することが期待されている。

(4) 人権は、人間が生まれながらに持つとされる権利である。通常、法律の制定以前から、人間が保持しているとみなされるため、( ⑬ )と呼ばれる。明治初期に、( ⑭ )や加藤弘之が天賦人権論を唱えた。1948年に国連総会で世界人権宣言が採択された。日本では、( ⑮ )年に、人権教育及び人権啓発の推進に関する法律が制定された。

【 令和4年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（ 「教育原理に関する問題」 ） 専門科目 4枚のうち 2枚目

選択肢（使わない用語もある）

- |           |             |            |
|-----------|-------------|------------|
| (ア) 愛国心   | (イ) 社会      | (ウ) 学習指導要領 |
| (エ) 人間関係  | (オ) 勝海舟     | (カ) 基本権    |
| (キ) 4     | (ク) キックアウト  | (ケ) 20     |
| (コ) ネグレクト | (サ) 18      | (シ) 公共的    |
| (ス) 厚生労働省 | (セ) 指導要録    | (ソ) 自然権    |
| (タ) 10    | (チ) 児童福祉相談所 | (ツ) 規範意識   |
| (テ) 坂本龍馬  | (ト) 幼稚園教育要領 | (ナ) 保育要領   |
| (ニ) 文部科学省 | (ヌ) 児童相談所   | (ネ) 2000   |
| (ノ) 15    | (ハ) 技能      | (ヒ) 介入     |
| (フ) 福沢諭吉  | (ヘ) 見学      | (ホ) 3      |
| (マ) 理解    | (ミ) 1960    | (ム) 12     |

【 令和4年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（ 「教育原理に関する問題」 ） 専門科目 4枚のうち 3枚目

問題2 A群の説明にもっとも関係の深い用語を、次ページに示したB群の中から一つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

【A群】

- (1) パフォーマンス課題等を評価する際、評価における一貫性を保障するために、複数の評価者による得点の平均化等、評定値を平準化する行為。
- (2) 大正自由教育運動で大きな役割を果たした。成城学園を創立し、児童中心の教育、自学主義教育を実践した。
- (3) 企業が社会に向けて、学校教育の内外を問わず教育に参加する活動であり、講師派遣による出張授業や教材の提供、施設見学等があげられる。
- (4) 学校での学びが「生きること」や「働くこと」と疎遠であることを問題視し、1999年12月の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」において提唱された教育。
- (5) アメリカの社会学者、心理学者で、『精神・自我・社会』を著した。象徴的相互行為論に基づき、IとMeという観点から、人間の自我の形成プロセスを説明した。
- (6) 「学び」を社会のいたるところに仕掛け、豊かな地域づくりへの展開を支援するために、文部科学大臣の委嘱を受けた大学等での講習や養成課程を修了した人たちの称号であり、2020(令和2)年に制度化された。
- (7) 1950年代に群馬県の島小学校校長として公開研究会を開催し、「森の出口」の解釈に関する介入授業やゆさぶりといった授業のあり方を追究して、それを『未来誕生』ほか多くの著作に残した。
- (8) 1989(平成元)年に国連で採択され、1990(平成2)年に国際条約として発効した条約。日本は、1994(平成6)年にこの条約に批准した。
- (9) 文部科学省から指定を受けて、学習指導要領等の国の基準によらない教育課程の編成・実施が認められた学校。
- (10) ある特定の教義、信念、イデオロギー等を絶対的真理として、注入し信じさせる教条主義的な教育方法であり、道徳教育においては徳目や価値の教え込みにつながる。

【 令和4年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（ 「教育原理に関する問題」 ） 専門科目 4枚のうち 4枚目

【B群】（使わない用語もある）

- (ア) 研究指定学校
- (イ) チャータースクール (charter school)
- (ウ) 総合制
- (エ) 進路指導教育
- (オ) 社会教育主事
- (カ) ヘッセ (Hesse, H. K.)
- (キ) 研究開発学校
- (ク) 教育 CSR (Corporate Social Responsibility)
- (ケ) インクルージョン (inclusion)
- (コ) 澤柳政太郎
- (サ) モデレーション (moderation)
- (シ) 芦田恵之助
- (ス) ポートフォリオ (portfolio)
- (セ) 社会教育士
- (ソ) 子どもの権利条約
- (タ) インドクトリネーション (indoctrination)
- (チ) ミード (Mead, G. H.)
- (ツ) 斎藤喜博
- (テ) キャリア教育
- (ト) 教育の権利条約

【 令和4年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（ 「教育心理に関する問題」 ） 3枚のうち 1枚目

問題1 A群の説明にもっとも関係の深い用語を、次ページに示したB群の中から一つ  
選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

【A群】

- (1) ヴィゴツキーが提唱した発達最近接領域に働きかける具体的な指導・援助のこと。
- (2) 新しい経験や情報に合わせて、既存のスキーマをつくり変える働き。
- (3) 心の理論研究で用いられる代表的な方法。
- (4) ある学習がその後の別の学習に影響を及ぼすことであり、正と負の両方がある。
- (5) 系列位置曲線において、終盤に提示された数項目の再生率が高いこと。
- (6) 心理アセスメントのための実施方法。
- (7) 新生児期を通して高頻度で観察されるが、徐々に減少する。
- (8) スピアマンの知能に関する研究において提唱された概念。
- (9) 学習に対する動機づけと作業成績の関係を述べたものであり、動機づけと作業成績は逆U字型の関係にあるとする。
- (10) 神経発達症の1つで、幼少期に発症しやすい。

【 令和4年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（ 「教育心理に関する問題」 ） 3枚のうち 2枚目

【B群】(使わない用語もある)

- (ア) ジェームズ-ランゲ説 (James-Lange theory)
- (イ) 失語症 (aphasia)
- (ウ) 転移 (transfer)
- (エ) ヤーキーズ-ドッドソンの法則 (Yerkes-Dodson law)
- (オ) 新近性効果 (recency effect)
- (カ) 相互作用説 (interactionism)
- (キ) 因子不変性 (factorial invariance)
- (ク) 足場かけ (scaffolding)
- (ケ) 特殊因子 (specific factor)
- (コ) テストバッテリー (test battery)
- (サ) チック症群/チック障害群 (tic disorders)
- (シ) 潜在連合テスト (implicit association test)
- (ス) 誤信念課題 (false belief task)
- (セ) 調節 (accommodation)
- (ソ) 同化 (assimilation)
- (タ) 生理的微笑 (spontaneous smile)

【 令和4年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（ 「教育心理に関する問題」 ） 3枚のうち 3枚目

問題2 A群の人名にもっとも関係の深い用語をB群の中から一つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

【A群】

- |                           |                                 |
|---------------------------|---------------------------------|
| (1) アッシュ (Asch, S.E.)     | (2) エクマン (Ekman, P.)            |
| (3) ギブソン (Gibson, J.J.)   | (4) グッドイナフ (Goodenough, F. L.)  |
| (5) クレペリン (Kraepelin, E.) | (6) ローゼンソール (Rosenthal, R.)     |
| (7) ミルグラム (Milgram, S.)   | (8) ハヴィガースト (Havighurst, R. J.) |
| (9) セリエ (Selye, H.)       | (10) ローゼンツァイク (Rosenzweig, S.)  |

【B群】(使わない用語もある)

- |   |   |
|---|---|
| (ア) 印象形成<br>(impression formation)              | (イ) アフォーダンス<br>(affordance)             |
| (ウ) 表情<br>(facial expressions)                  | (エ) TAT<br>(Thematic Apperception Test) |
| (オ) P-F スタディ<br>(Picture-Frustration Study)     | (カ) 発見学習<br>(discovery learning)        |
| (キ) 発達課題<br>(developmental task)                | (ク) 服従<br>(obedience)                   |
| (ケ) ソーシャルスキル・トレーニング<br>(social skills training) | (コ) 作業検査法<br>(performance test)         |
| (サ) ストレス<br>(stress)                            | (シ) ソーシャルワーク<br>(social work)           |
| (ス) ピグマリオン効果<br>(Pygmalion effect)              | (セ) 対象喪失<br>(object loss)               |
| (ソ) DAM (Draw-A-Man Test)                       |   |